生成AIの特徴と活用方法（解説編）

立命館大学図書館　レファレンス係

解説編のポイント

- 生成AI活用ガイドラインを確認しよう。
- 大学推奨のアプリケーションを使おう。
- 生成AIの回答が正確な情報かどうか、必ず確認しよう。
- 生成AIの回答をそのまま使うのではなく、自分の考えを発展させるために活用しよう。
- 生成AIを使う側としての意識、活用能力を養おう。

生成AIって？

- 生成AIについて知ろう！
- 大学でのガイドラインについて
- 生成AIをどう使うか

生成AIのイメージ

- すぐに答えが返ってくる！
- 無料で使える！
- 質問に対する答えが
  わかりやすくまとめられている！

便利そうだけど、
実際どう使ったらよいか
よくわからないなあ。

皆さんの中には、生成AIを使ったことがある方も多いかと思います。生成AIを使ったことがある方は、どのような感想を持ったでしょうか？
ポジティブな印象の一方で、回答に誤りを見つけたり、
AIに疑問を持ったりした方もいるかもしれません。

生成AIとは

あらかじめ学習したデータをもとに、画像・文章・音楽・デザインなどを新たに作成する人工知能（AI）の総称。拡散モデルやGANなどの機械学習の手法により、文章からイラストを作成する画像生成AIや、人間と対話しているかのような自然な言葉遣いで文章を生成する対話型AIなどが開発されている。生成AI。自動生成AI。コンテンツ生成AI。ジェネレーティブAI。

"せいせい-エーアイ【生成AI】", デジタル大辞泉, JapanKnowledge, https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=2001029965914 , (参照 2025-11-27)

大学推奨のアプリケーションを使おう

Microsoft 365 Copilot Chat

Adobe Express

Adobe Firefly

学習や研究活動において生成AIを利用する場合は、情報セキュリティ面も保証されたこれらのツールを使うようにしましょう。

※ログイン方法は実践編で案内しています。

生成AIの活用ガイドライン

立命館大学では、学生向けに活用ガイドラインが設定されています。

- **確認**
  - 授業でAI利用が認められているか確認
- **相談**
  - 利用範囲を教員に確認
- **順守**
  - 指示・ガイドラインを守る
- **活用**
  - ルールの範囲内で生成AIを利用

- 入力すべきではない情報について
  - （1）個人情報
  - （2）機密情報、秘匿性の高い情報
  - （3）不適切な情報
  - （4）著作権のある授業資料自体

生成AIの活用ガイドライン

立命館大学では、
学生向けに活用ガイドラインが設けられています。

・授業ごとに指示された生成AI利用ポリシーの範囲内で生成AIを活用することができる。

・生成AIの出力する情報を鵜呑みにすることなく自分自身で正確性を確認すること。出力された内容を利用する責任は自分自身にある。

・生成AIへの入力データは学習データとして蓄積され再利用されるリスクがある。生成AI活用における倫理と情報セキュリティを理解したうえで使用すること。

・自律的に学習を進めるためのツールとして生成AIを主体的に活用しよう。

立命館大学教学部「授業等学習活動における生成AI活用ガイドライン（学生用）」2026.3.19
https://www.ritsumei.ac.jp/file.jsp?id=686918
（立命館 学び支援サイト内 https://www.ritsumei.ac.jp/pathways-future/ ）

生成AIの活用ガイドライン

- 授業科目によって、生成AIの利用可否や範囲が異なります。受講する科目の方針に従ってください。

- 入力すべきではない情報について

（1）個人情報

（2）機密情報、秘匿性の高い情報

（3）不適切な情報

（4）著作権のある授業資料自体

※AI使用の申告義務、使用履歴の保存について求められる場合がありますので、授業で示されるガイドラインに沿って対応してください。

レベル	ポリシー	説明
1	使用禁止	■ 論述の準備段階、構想段階、作成段階、校正段階の全てにおいて、生成 AI は一切使用してはいけない。 ■ 論述は全て作成者の持つ知識・理解・技能にのみよって行う必要がある。
2	考えの生成や整理に活用	■ 論述の構想段階で、アイディア生成、構成の検討、ブレインストーミング、考えの発展などに使用できる。 ■ AI の生成物を、提出物に含めてはいけない。
3	文章の校正や改稿に活用	■ 論述の校正段階で、誤字・脱字の点検、文法の修正、より適切な文章への書き直し等に使用できる。 ■ 論述内容に、AI による新たな内容を加えてはいけない。 ■ 文末に AI を校正に用いたことを明示する。また、校正前の文章を別途添付することが望ましい。
4	論述に活用し自身で検証	■ 事実関係に関する論述に生成 AI の生成物を活用できるが、議論・考察は作成者が行う必要がある。 ■ 論証の構成を AI で行うことができるが、論拠は作成者自身が他の学術的資源を用いて引用する必要がある。 ■ AI の生成物を論拠に用いる場合は出典として明示する。
5	創造的に活用	■ 論述の全ての段階で生成 AI の生成物を活用できる。 ■ 作成者と生成 AI の協働により、従来にない創造性あふれる論述のために活用を推奨する。 ■ 論述のどの部分を生成 AI で行ったか示す必要もない。

（参考④：Perkins et al. 2024 を参考に作成）

※上記の表は、論述課題における生成AI利用ポリシーの一例です。

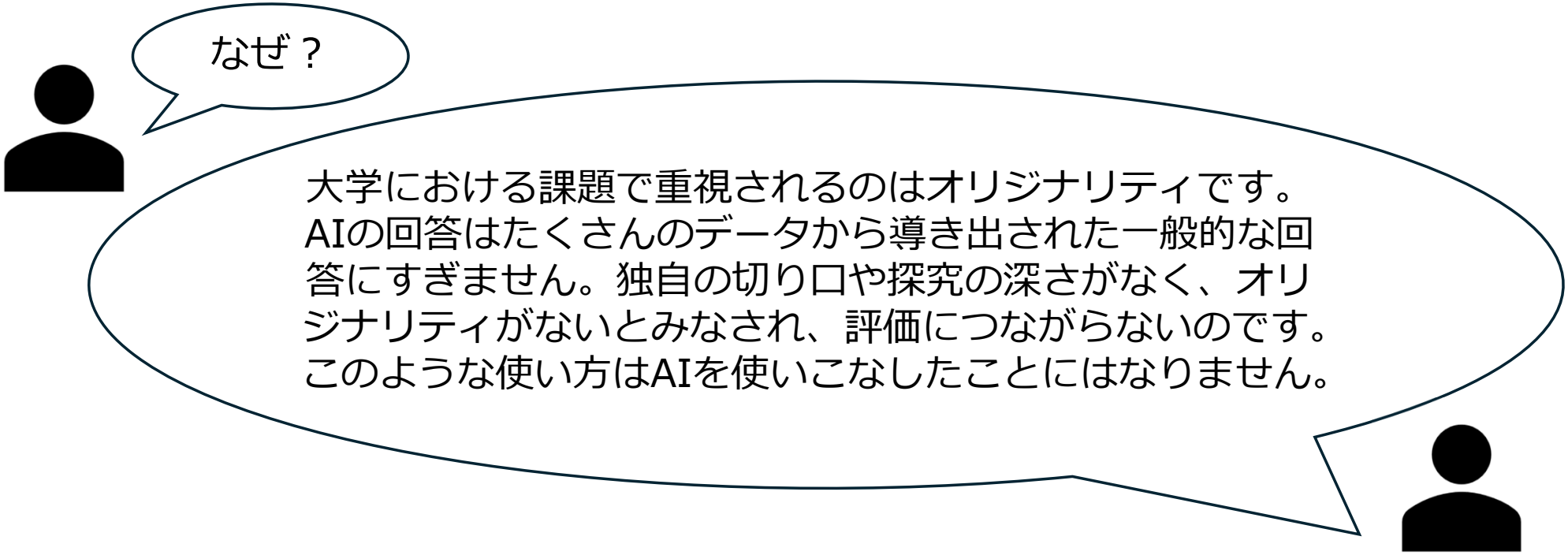
生成AIをどう使うか？

- 例えば、課題が出た場合（ポリシー2～5の授業）

ちょっと待って！
その使い方、ガイドラインに抵触していませんか？
生成AIの使い方について、考えてみましょう。

生成AIをどう使うか -AIを使いこなしているつもりになっていませんか？-

生成AIの回答をそのまま提出
⇒たとえ見つからなくても、評価につながらない



生成AIをどう使うか -AIを使いこなしているつもりになっていませんか？-

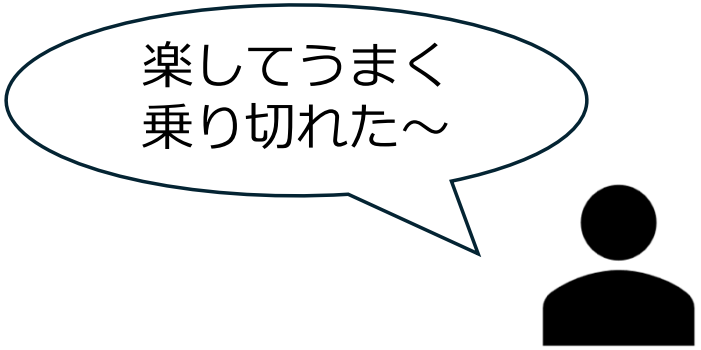
生成AIに課題の答えを聞いて、そのまま提出した場合

↓

AIは入力された情報を元に、
多くのデータから導き出された一般的な回答を作成する。

↓

課題に対する独自の視点、探求の深さが無い。
課題の評価につながらない。



AIの回答そのまま、
体裁を整えて提出。
うまく乗り切ったつもり
でも、それでAIを使いこ
なしたことになる？

生成AIをどう使うか -AIを使いこなしているつもりになっていませんか？-

では、AIを使いこなすとはどういうこと？

自分の考えを導き出し、発展させるような使い方のことをいいます。例えば、アイデア出しに利用する使い方です。出力された回答から自身でテーマを選定し、探究を深め、自分の表現で考えをまとめます。このような使い方をするとオリジナリティが反映されるので、結果的に評価につながります。

生成AIをどう使うか？ -自分の考えを発展させるためにAIを使ってみる！-

目的を意識して生成AIを活用した場合

例えば…

- アイデアを出す段階でAIを利用
- ブレインストーミング、考えの発展のために使ってみる
- 別のツールで情報の裏付けをとる（図書、論文、データベースなど）

独自の視点を持ち、内容に裏付けがあり、
オリジナリティのあるレポートは評価につながる！

AIを使いこなすとは、AIの回答を利用して、自分の視点をもって独自に発展させること。

生成AIをどう使うか

使う人間に力・意識が必要

求められる力
- 情報を取捨選択する力
- 物事に対する問題意識
- 事象を掘り下げる探究心
- 情報を整理する力
- 自分の意見を表現する力　　などなど

AIの台頭以前から
学修のために必要と
されてきた力は、
AIを使う時代になっても
変わらず必要です。

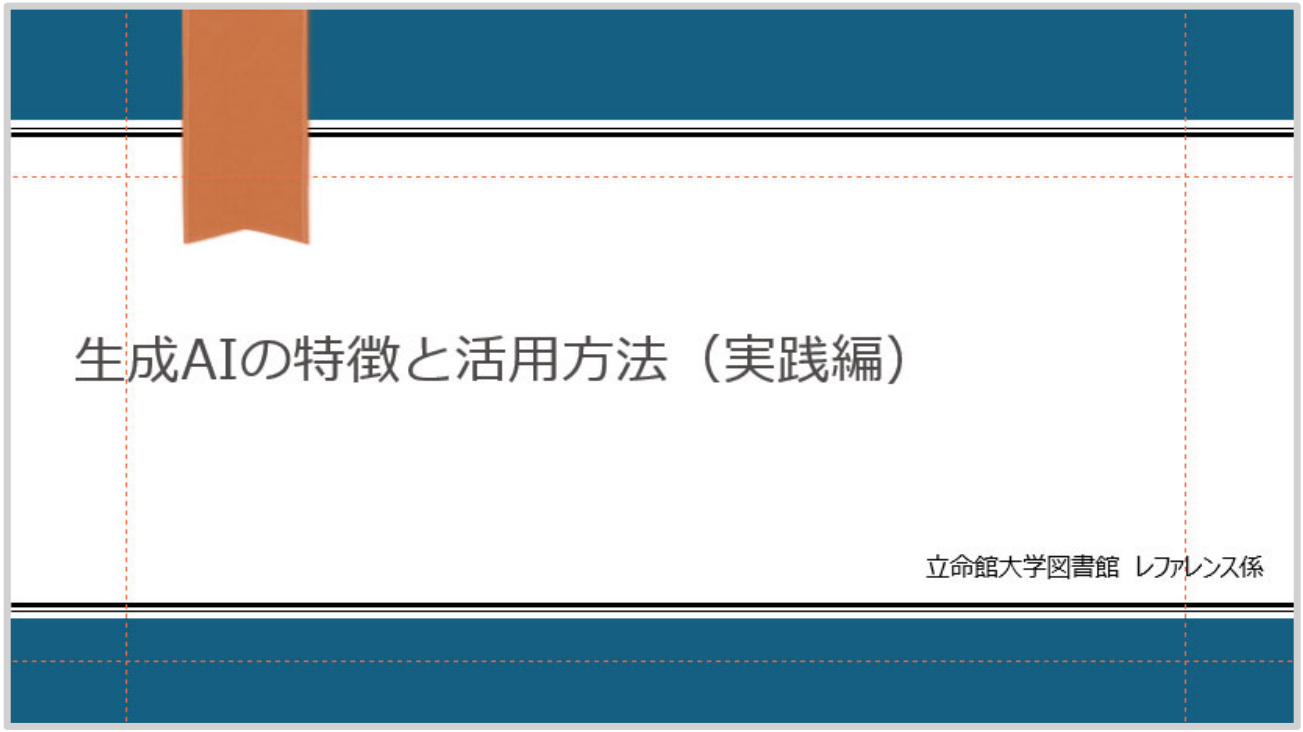
成長できる機会を逃すのはもったいない！

使い方次第で、自分の能力を高めることができる。

- 注意して活用すれば、自分の能力を高めて成長するチャンスになる。
- 生成AIを単に楽をするためのツールとして使うだけなら、いつかAIに取って代わられるかも？
- 内容を深く理解するためには、生成AIだけでなく、図書館の資料やデータベースで調べる必要がある。自分で調べる力、正確な情報を入手できる力がつく。

ただ単に楽をするのではなく、これからの時代に生き残るために、
生成AIを活用する方法を考えてみましょう。

実際に生成AIを使ってみよう



https://www.ritsumei.ac.jp/lib/pub/d01/010/032/2026_10pr.pdf